

2 0 2 3 年度

学校自己評価報告書

常翔啓光学園中学校・高等学校

I. 学校自己評価の目的

本校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保証を図ることが重要である。

そのため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、教職員が現状や課題意識を共有し、学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的とする。

II. 実施方法

1. 実施期間：2023年12月～2024年1月

2. 調査対象：本校教職員84人

職 域	人数	割合 (%)
1. 専任教員	53	63%
2. 特任教員	31	37%
合 計	84	100%

3. 実施方法：アンケート形式の選択評価

4. 評価項目：(1) 基本的生活習慣指導に関すること 2項目
(2) 教務・教科指導に関すること 5項目
(3) 進路指導に関すること 5項目
(4) クラブ活動に関すること 2項目
(5) 学校行事に関すること 5項目
(6) 健康管理に関すること 3項目
(7) 施設に関すること 5項目
(8) 保護者・社会との連携に関すること 3項目

5. 評価方法：①「とても当てはまる または 大変満足している」・・・ プラス評価
②「当てはまる または 満足している」・・・ プラス評価
③「あまり当てはまらない または あまり満足していない」・・・ マイナス評価
④「当てはまらない または 満足していない」・・・ マイナス評価
⑤「わからない」「未回答」

※満足度スコアについては、人数と割合で示している。さらに割合は基準を基にして合計した値を、有効回答数から「わからない」と回答した数を引いた数で割って算出している。

- ① 「とても当てはまる または 大変満足している」・・・ +3点
② 「当てはまる または 満足している」・・・ +1点
③ 「あまり当てはまらない または あまり満足していない」・・・ -1点
④ 「当てはまらない または 満足していない」・・・ -3点

6. その他：現在のアンケート項目に見直して6年目になる。昨年度との比較も織り交ぜながらの評価とする。今年度は新型コロナウイルス感染症だけでなくインフルエンザ感染症の拡大により、学級閉鎖などの臨時休校措置となったクラスがあった。そのため学校行事の一部や施設の利用ができなかったものもあった。

Ⅱ. 2023年度「教育目標」と「重点目標」

1. 教育目標 大学入試改革に向けた教育の実践と授業力のさらなる向上

2. 重点目標

	重点目標	自己評価
(1)	中学校・高等学校ともに募集定員の充足	△
(2)	授業第一（授業見学・公開研究授業の実施など）	○
(3)	生徒・保護者の希望する進路の実現	○
(4)	国公立大45名。難関私立大63名。学区内大145名	未確定
(5)	生徒、教職員が誇りに思える学校づくり	○
(6)	「ICT教育」「ALによる参加型授業」「探究活動」の推進	◎

3. 取り組み内容および自己評価

- (1) 中学校募集人員90名に対して入学予定者数は62名で（2月11日現在）、募集人員を充足できなかった。入学予定者62名は、昨年度2023年度の入学者数59名より微増の数字に収まっている。2023年度は昨年度よりのべ受験者数は少し増加したものの、生徒募集に対しては成果を伸ばすことがほとんど出せず、入学者数は伸び悩んだ。来年度以降もさらに多くの新入生を迎え入れられるよう、教育内容の充実に取り組んでいく。

高等学校入試は、受験者数は内部進学者を含めると昨年まで5年連続で1,600名前後を推移し、一昨年度は1,700名を超えた。今年度はさらに教育相談の基準を上げるにより若干受験者数は減少したものの1,500名弱の受験生となった。また本校の教育内容や施設の充実が広く周知され専願率は上昇傾向を維持している。また特進、進学各コースの魅力をさらに押し出し、今後とも選ばれる学校としての地位を高めていくよう教育内容の充実を図る。特に今年度は教室数の問題から、入学者数を絞る必要があった。そのため教育相談の基準を前年度よりも高めたが、それでも最終的な入学予定者数は、募集人員を超える400名前後を予想している。また今年度から特別予算も活用し、広報活動にもさらに力を入れ、来年度に向けても認知度を高め、さらに安定した受験者の獲得を目指す。

- (2) 昨年同様、学力の伸長に対する取り組みとして、長期休暇前の進学講習においてテストゼミ形式の授業を徹底させ、模擬試験や大学入試問題の過去問を解く機会を増やした。適切な時期の進路ガイダンスや入試状況の情報収集など、生徒や保護者への情報提供も欠かさず行っている。新型コロナウイルスは5類感染症へ移行したので、高校3年生に対する学習面、進路情報提供面では、昨年までより生徒へのサポートがしっかりできた。また、従前どおり生徒面談や保護者面談を繰り返し、これまで以上の進路指導を行い、更なる大学合格実績向上へとつながるように職員一同取り組んだ。
- (3) 授業アンケートを年2回実施し、アンケート結果を分析してみると、中高ともに1回目(1学期終了時点)よりも2回目(2学期終了時点)の方が、評価が上昇しているクラスが多い。教職員が1回目の結果をみて授業展開を改善した結果といえる。加えて、今年度も中高ともに満足度が高い数値で推移している。教員評価制度による業績評価の目標として、各教科主任は授業アンケートの満足度上昇を掲げている。目標達成についての評価はこれからであるが、自己分析を行い、今後の改善に役立てたい。
- (4) 大学合格実績については、現時点では一般入試結果が出そろわない時期なので、実績的な部分についてのコメントは差し控える。社会全体で経済が停滞し、各家庭でも同様の状況が生じている。大学入試にも影響が大きく、受験回数減少や年内推薦入試受験者数増加などが顕著な例である。経済的な問題という生徒本人の学力とは違う要素で卒業後の進路が変わってしまうところは、本来であれば避けたい事柄である。受験指導については例年と変わらず実施できている。進路選択の幅も例年どおりの広がりを見せた。今後も引き続き、「生徒の希望、保護者の願いを叶える」進路指導を実践していく。
- (5) 「IV.自己評価報告」の各項目にあるとおり、すべての項目が及第点であるとは言えない。年度当初はコロナ禍の影響であらゆる面で制限があった。しかし新型コロナウイルスは5類感染症へ移行した後は、コロナ前の年と同様な状況に少しずつではあるが、確実に戻りつつある。特に学校行事の一部中止や制限つきから通常実施に向かい、満足度が上がることに繋がったと言える。結果を検証し改善すべき点は改善することで、生徒、教職員が誇りに思える学校づくりを目指す。
- (6) 中高とも新入生から、一人1台タブレットを持たせての教育が実施されている。ICT教育推進委員会メンバーをはじめ多くの英知を結集し、全生徒に対してオンラインを活用した授業を実施することができた。年度当初に限らず、今年度もコロナ感染で出席停止になった生徒に対しては、オンライン授業の配信を実施した。これにより通常の学校生活と変わらない

時間割どおりの授業を行い、確認テストなどで定着度を測り、学習指導計画からほぼ遅れることのない成果が生まれた。

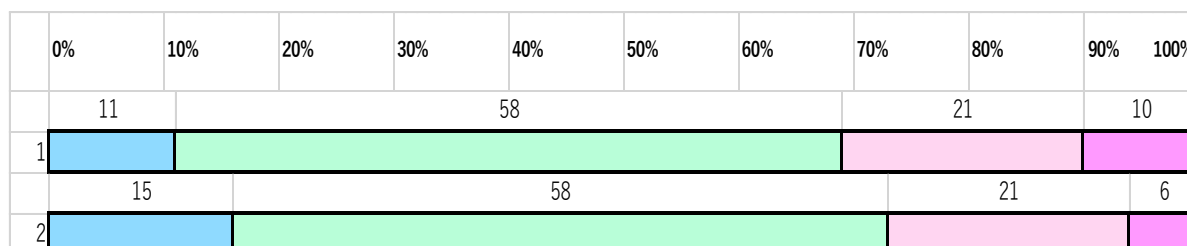
IV. 自己評価報告

達成度の基準については、目標と結果の差により、◎ 0.5 以上(大きく達成)、○ 0.0 以上 0.5 未満(達成)、△ -0.5 以上 0.0 未満(概ね達成)、× -0.5 未満(未達成)とした。

また、2022年度内に2023年度の満足度スコア目標を設定した。その際、2022年度の結果に数値を上乗せして目標設定したが、コロナウイルス感染症拡大の不安が継続し、通常の教育活動ができないため、2023年度のスコア目標を2022年度の結果と同じ値に変更した。今年度はコロナ感染症が5類へ移行したので、再度直近3ヶ年間の推移を見つめながら2024年度の目標値を設定した。

1. 基本的生活習慣指導に関すること 2項目

番号	設問文	2023	2023	差	達成度	2024	回答数					
		満足度	満足度			満足度	とても	当てはまる	あまり当て	当てはまる	わからない	未回答
		23目標	23結果			24目標	当てはまる		はまらない	ない		
1	あいさつや時間厳守などの社会に通用する指導を徹底している。	0.30	0.40	0.10	○	0.40	8	41	15	7	0	0
2	学校生活のルールや、そのルール遵守についての指導を実施している。	0.40	0.70	0.30	○	0.70	11	41	15	4	0	0



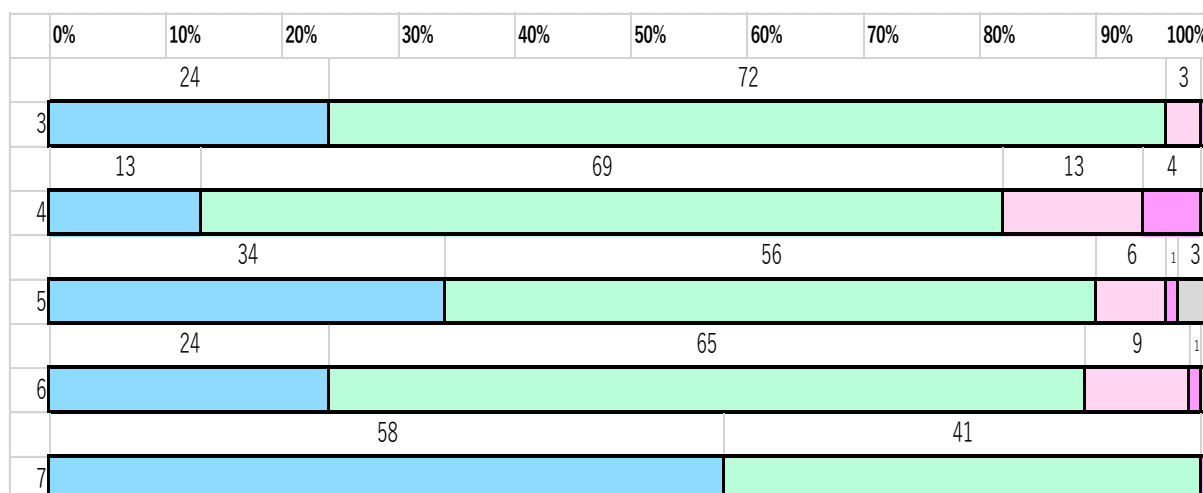
【評価と次年度の目標について】

「社会に通用する指導」「ルール遵守についての指導」は、今年度はコロナ5類感染症への移行後、校内では生徒指導上の問題は増加し、通学途中の交通マナーや公共交通機関利用時のマナーについての苦情が目立ち、しっかりとこれらに対応した結果、評価は少し向上した。

通学途中のマナーについては本校の指導に加え家庭での指導の協力を呼び掛けているが、効果的な指導を見いだせず苦慮している。引き続き生徒指導部を中心に全学的な意思統一を図り、徹底した指導が来年度に向けての課題である。

2. 教務・教科指導に関すること 5 項目

番号	設問文	2023	2023	差	達成度	2024	回答数					
		満足度	満足度			満足度	とても	当てはまる	あまり当て	当てはまる	わからない	未回答
		対目標	対結果			対目標	当てはまる		はまらない	ない		
3	授業において、教材や教え方に様々な工夫をしている。	1.30	1.40	0.10	○	1.40	17	51	2	1	0	0
4	授業のスピードは、生徒の理解度に合わせている。	1.10	0.80	-0.30	△	1.10	9	49	9	3	1	0
5	生徒に授業の年間計画や成績評価の方法について、授業の中で説明している。	1.70	1.50	-0.20	△	1.70	24	40	4	1	2	0
6	充実したわかりやすい内容の授業に努め、生徒の学習意欲を保つようにしている。	1.20	1.30	0.10	○	1.30	17	46	6	1	1	0
7	生徒からの学習に関する質問などに対して、熱心に対応している。	1.90	2.10	0.20	○	2.10	41	29	0	1	0	0



【評価と次年度の目標について】

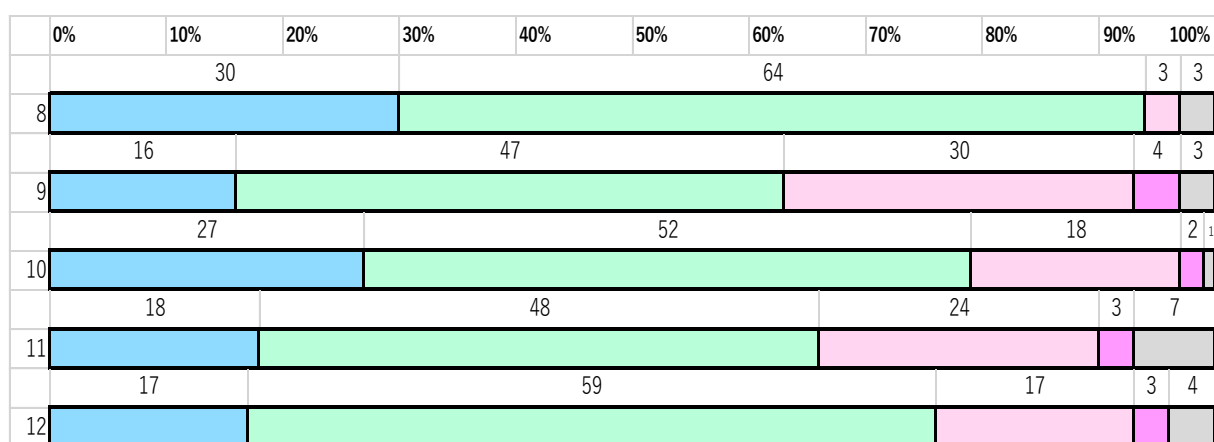
2020年度以降の4年間は、教務・教科指導に関する項目は全項目高いスコアを維持し続けている。全般的に他の項目に比べて圧倒的に評価が高い。

2021年度は休校期間があり通常授業が行えなかったことで、やや満足度は下がった。その一方でオンライン授業はほぼ全員の先生が実践できるようになり、3年計画がこの1年でできるようになったことは大きな成果であった。2022年度は休校期間がなく、またオンライン授業の徹底が図られ、予定どおり授業が進み、全教職員は教務・教科指導に関して満足度は向上している。

しかし2022年度はタブレットを使った授業における工夫がさらに必要となり、そのことが実感できたことで、21世紀型教育への取り組みがますます必要となってきたことを認識している教員が増えてきた。このような状況の中で概ねすべての項目が達成できたことは、次年度以降の新しい授業構築への弾みとしたい。「教材や教え方に様々な工夫を行っている」が、この項目の中でスコアが非常に高いことが、生徒や保護者からの信頼を得るうえで重要なポイントを占めている。

3. 進路指導に関すること 5項目

番号	設問文	2023	2023	差	達成度	2024	回答数					
		満足度 7/7目標	満足度 7/7結果			満足度 7/7目標	とても 当てはまる	当てはまる	あまり当て はまらない	当てはまら ない	わからない	未回答
8	担任として（担任以外は自分が担任になるとして）、生徒との個人面談では、進路決定に役立つと感じる指導を提供している。	1.30	1.60	0.30	○	1.60	21	46	2	0	2	0
9	ICT機器の活用やアクティブラーニング型の授業など、新しいデザインの授業を生徒に提供している。	0.70	0.50	-0.20	△	0.70	11	34	21	3	2	0
10	進路ガイダンスを適切に行い、必要とする進路情報を的確に生徒に提供している。	1.20	1.10	-0.10	△	1.20	19	37	13	1	1	0
11	学力向上に役立つと感じる進学講習を実施している。	0.10	0.80	0.70	◎	0.80	13	34	17	2	5	0
12	各種模擬テストは、生徒の学習に役立っている。	0.30	0.90	0.60	◎	0.90	12	42	12	2	3	0



【評価と次年度の目標について】

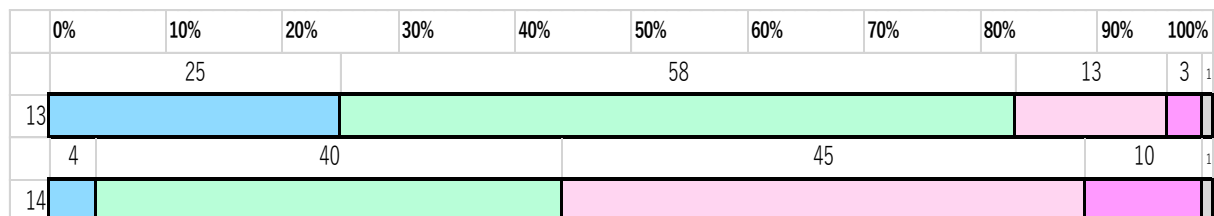
きめ細やかな進路指導は本校の強みである。2023年度は、これまでと同様に個人面談、ICT活用・AL授業、進路ガイダンスは高い評価を得ている。

各クラス単位でオンラインを活用した進路ガイダンスを実施し、受験生モードへの気持ちの切り替え、集団としてのまとまり、最後まであきらめない姿勢を年度初めの大きな目標とした。

大学入試結果はまだ出そろっていないが、ここ数年間経済的な問題により一人当たりの受験校数が年々減少する傾向が続いている。安全志向の大学受験になっていることは間違いない。

4. クラブ活動に関すること 2 項目

番号	設問文	2023	2023	差	達成度	2024	回答数					
		満足度 2023目標	満足度 2023結果			満足度 2024目標	とても 当てはまる	当てはまる	あまり当て はまらない	当てはまら ない	わからない	未回答
13	部活動は、生徒の学校生活を充実させている。	0.50	1.10	0.60	◎	1.10	18	41	9	2	1	0
14	部活動と学習の両立を果たしている生徒が多い。	-0.50	-0.20	0.30	○	0.00	3	28	32	7	1	0



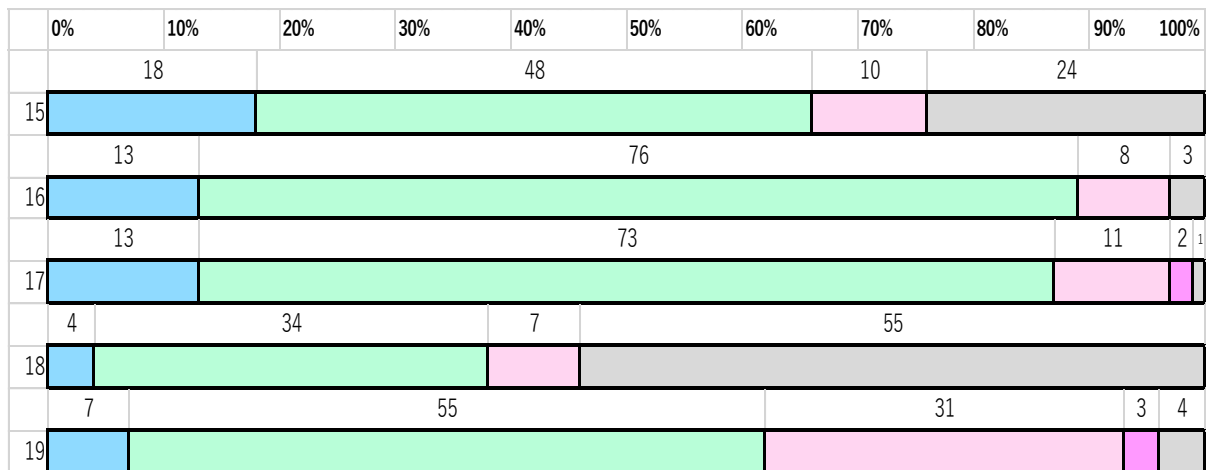
【評価と次年度の目標について】

教員側からすると部活動と学習の両立の点では2022年度までの数年間は負の評価が続いており満足度は低かったが、2023年度は大きく改善した。スポーツ庁が策定したガイドラインに沿って部活動を行っているが、この指標が生徒にすれば望むべき体制といえるだろう。

しかし今後は生徒や保護者の学校満足度を維持しつつ、生徒の学力保障に向けて取り組まなければならない。この観点から部活動と学習の両立が達成できるように教科指導における工夫が必要となってくる。授業時間だけではなく、家庭における学習も含めて生徒がしっかり取り組めるような仕掛けが必要となってくる。

5. 学校行事に関すること 5項目

番号	設問文	2023	2023	差	達成度	2024	回答数					
		満足度 2023目標	満足度 2023結果			満足度 2024目標	とても 当てはまる	当てはまる	あまり当て はまらない	当てはまら ない	わからない	未回答
15	修学旅行に生徒は満足している。	1.10	1.20	0.10	○	1.20	13	34	7	0	17	0
16	体育祭に生徒は満足している。	0.80	1.10	0.30	○	1.10	9	54	6	0	2	0
17	啓光祭に生徒は満足している。	0.90	1.00	0.10	○	1.00	9	52	8	1	1	0
18	K1クエスト（大学での探求活動）などをはじめ、中高大連携の取り組みは満足できるものである。	-0.30	0.90	1.20	◎	0.90	3	24	5	0	39	0
19	生徒会活動は活発である。	-0.10	0.40	0.50	◎	0.40	5	39	22	2	3	0



※質問項目15は高校所属教員のみ回答、質問項目18は中学所属教員のみ回答。

【評価と次年度の目標について】

2021年度、2022年度とも、コロナ感染症拡大予防のため修学旅行は外国ではなく国内で実施。しかし2023年度は年度当初にコロナ感染症が5類へ移行したため、修学旅行の行先として海外に戻すことができたが、行先として日本国内の選択肢も設定した。

体育祭は2021年度は密を避けるために中止したが、2022年度以降は感染の勢いがやや緩くなったので実施することができた。啓光祭も2022年度以降は様々な問題点をクリアしながら実施することができた。

よって、2022年度、2023年度の2年間は従前と比べて修学旅行、体育祭、啓光祭とも非常に高い評価を得ることができた。

6. 健康管理に関すること 3項目

番号	設問文	2023 満足度 777目標	2023 満足度 777結果	差	達成度	2024 満足度 777目標	回答数					
							とても 当てはまる	当てはまる	あまり当て はまらない	当てはまら ない	わからない	未回答
20	生徒の安全・健康に関する指導を的確に行っている。	0.30	0.80	0.50	◎	0.80	7	50	11	2	1	0
21	生徒の体調が悪い時など、保健室は適切な対応をとっている。	1.10	1.50	0.40	○	1.50	19	49	3	0	0	0
22	人権学習を効果的に行っており、生徒の悩みの相談に対応できている。	0.00	0.70	0.70	◎	0.70	8	42	20	0	1	0

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
	10	70							16	3	1
20											
	27	69								4	
21											
	11	60							28		1
22											

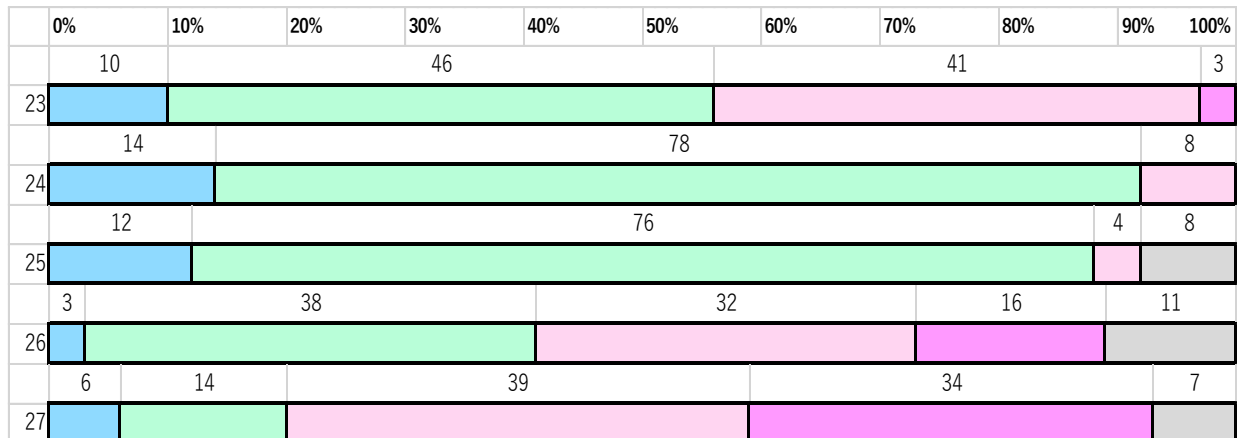
【評価と次年度の目標について】

「保健室の適切な対応」は、ここ数年継続して高評価であった。日常の学校生活での評価はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染症に対する対応についても文部科学省や大阪府からのガイドラインに従い、新型コロナ感染拡大防止に向けての徹底した指導をリードした。

「生徒の悩みの相談」には担任をはじめ学年教員、養護教諭、そしてスクールカウンセラーによるカウンセリングなどを行っている。この点においても、養護教諭とスクールカウンセラーの協力の結果と考える。学校関係者の、心身両面でのサポートに努めていきたい。

7. 施設に関すること 5項目

番号	設問文	2023	2023	差	達成度	2024	回答数					
		満足度 7/7目標	満足度 7/7結果			満足度 7/7目標	とても 当てはまる	当てはまる	あまり当て はまらない	当てはま らない	わからない	未回答
23	清掃活動や環境美化指導を徹底している。	-0.10	0.30	0.40	○	0.30	7	33	29	2	0	0
24	学校の施設・設備は、学習環境・教育環境として満足できるものである。	1.00	1.10	0.10	○	1.10	10	55	6	0	0	0
25	図書室は利用しやすいようにいろいろと工夫をしている。	1.10	1.20	0.10	○	1.20	8	54	3	0	6	0
26	食堂のメニューは満足いくものである。	-0.70	-0.40	0.30	○	-0.10	2	27	23	11	8	0
27	食堂の価格は良心的なものである。	-1.50	-1.20	0.30	○	-0.90	4	10	28	24	5	0



【評価と次年度の目標について】

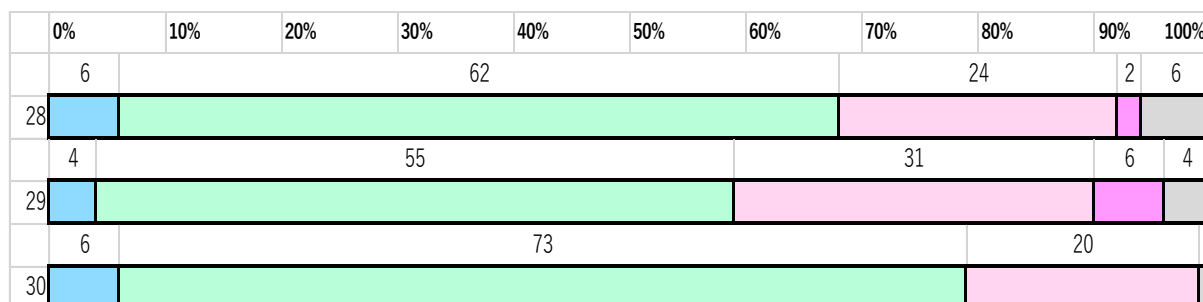
「清掃活動」に関しては、校内のみならず校外の清掃活動が例年以上に多かった。生徒会執行部が中心となり、積極的に取り組んでいた。一方、清掃業者の方々が、生徒や教員では目の行き届かない隅々まで気を配っていただいている現状も忘れてはならない。清掃は教育活動の一環であることからすると、もう少し生徒と教員で清掃活動を行う必要があるともいえる。

「図書室の利用」に関しては、ここ数年継続して、評価に改善がみられる。図書室職員の増員により、生徒や教職員への気配りが増したと考える。来年度以降もさらに改善に取り組んでいく。

「食堂」に関しては、メニューの面では随時特別メニューを追加したりと生徒の目を引くような取り組みをしていて評価は得ているが、価格の面ではまだまだ厳しい評価となっている。

8. 保護者・社会との連携に関すること 3項目

番号	設問文	2023	2023	差	達成度	2024	回答数					
		満足度 77目標	満足度 77結果			満足度 77目標	とても 当てはまる	当てはまる	あまり当て はまらない	当てはま らない	わからない	未回答
28	学校の情報を、家庭へきめ細かく提供できている。	0.10	0.50	0.40	○	0.50	4	44	17	2	4	0
29	学校のホームページを活用することができている。	-0.20	0.20	0.40	○	0.20	3	39	22	4	3	0
30	生徒は、包括的に考えて学校生活に満足している。	0.10	0.70	0.60	◎	0.70	4	52	14	0	1	0



【評価と次年度の目標について】

コロナ禍は悪影響ばかりをもたらしたものではないかもしれない。「学校の情報を家庭に提供する」学校側の整備の見直しを迫られた。またホームページを活用して学校行事の様子や生徒が学校生活とともに成長している様子を発信することの見直しも迫られた。2022年度はさらに学年内の連携と学校全体の連携を強化し、これまで以上に情報発信力を高め、2023年度はさらに改善に向けて取り組んだ。

また情報の提供、発信だけではなく、実際に学校生活をしている生徒たちが満足できる学校を提供できているのが最も重要なことである。「学校生活の満足度」は特にコロナ感染症が5類へ移行した今年度は昨年度よりも大きく向上しているという評価が得られている。

V. 総合評価と今後の改善方法

前年度と比較できる30項目の「満足度スコア」については未達成がなく、程度の差はあるが概ね達成できた。これまで本校では「教務・教科指導に関すること」「進路指導に関すること」の評価は高く、今年度も概ね前年度と同等の数値結果となった。

2020年度は予想もしない状況で広まったコロナ禍に対して、休校期間があり本来の教育活動ができなかったが、本校教職員はICT機器を積極的に活用し、休校期間中におけるオンライン授業の実施により、授業の遅れを最小限に留めることができた。その期間中の創意工夫で教員の教育力が上がった。2021年度はこの経験を活かし、ほぼすべての項目で2020年度を上回った。また2021年以降、ほぼすべての項目で前年度を上回り、特に2023年度は前年度までの経験を上手く活かすことができた一年であった。2024年度は新しい本校の教育を構築していきたい。

「教務・教科指導」に関しては生徒の授業アンケートからも高い評価は得ているが、昨年度から6学年すべての生徒が一人1台タブレットを持っている。その点からICT機器を活用した授業への取り組みは、全学的なさらなる検討が必要となる。さらに2022年度からICT機器を活用した公開授業を計画し実践している。この結果、教員の教育力を向上させることができた。

本校はMicrosoft Teamsを活用しており、授業だけでなく生徒との連絡ツール、探究活動、遠隔会議などいろいろな場面で利便性がある。Microsoft Teamsを活用している学校はまだ少ないが、一般社会でのMicrosoftの普及率は非常に高い。社会で活躍する人材を輩出することが本校の教育目標でもあるので、積極的に取り組んでいきたい。日本は、教育でICT機器を活用している割合がまだまだ少ないという結果が出ている。GIGAスクール構想の方向性も念頭に置き、進化し続けていきたい。

本校では、全学年の各行事で身に付けてほしい9つの力を見える化した「K!GOALS」を策定し、キャリアパスポートとして蓄積することを実践しているが、まだ十分に機能しているとは言いがたい。行事を含めた教育活動が通常どおり行えれば、事前事後の指導のために「K!GOALS」が活用できることを確信している。新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」が体感できるよう、積極性のある生徒を育てていく。

これらの改善に取り組む傍ら、教職員の働き方改革にも取り組んでいる。職員会議でリモート会議を積極的に取り入れ、会議時間の短縮を実践している。メールでの情報共有も定着し、ICT機器を活用した働き方が進んでいる。しかし仕事量が減るわけではないので、ワークシェアをすることで、働きすぎだとよく言われる教職員の生活リズムを好転させていきたい。そのために、学園全体として積極的に取り組んでいるところである。

1. あいさつや時間厳守などの社会に通用する指導を徹底している。
2. 学校生活のルールや、そのルール遵守についての指導を実施している。
3. 授業において、教材や教え方に様々な工夫をしている。
4. 授業のスピードは、生徒の理解度に合わせている。
5. 生徒に授業の年間計画や成績評価の方法について、授業の中で説明している。
6. 充実したわかりやすい内容の授業に努め、生徒の学習意欲を保つようにしている。
7. 生徒からの学習に関する質問などに対して、熱心に対応している。
8. 担任として(担任以外は自分が担任になるとして)、生徒との個人面談では、進路決定に役立つと感じる指導を提供している。
9. ICT 機器の活用やアクティブラーニング型の授業など、新しいデザインの授業を生徒に提供している。
10. 進路指導に関するガイダンスや行事を適切に行い、必要とする情報を的確に生徒に提供している。
11. 学力向上に役立つと感じる進学講習を実施している。
12. 各種模擬テストは、生徒の学習に役立っている。
13. 部活動は、生徒の学校生活を充実させている。
14. 部活動と学習の両立を果たしている生徒が多い。
15. 修学旅行に生徒は満足している。(高校所属職員のみ回答)
16. 体育祭に生徒は満足している。
17. 啓光祭に生徒は満足している。
18. K1 クエスト(大学での探求活動)などをはじめ、中高大連携の取り組みは満足できるものである。(中学校所属の教員のみ回答)
19. 生徒会活動は活発である。
20. 生徒の安全・健康に関する指導を的確に行っている。
21. 生徒の体調が悪い時など、保健室は適切な対応をとっている。
22. 人権学習を効果的に行っており、生徒の悩みの相談に対応できている。
23. 清掃活動や環境美化指導を徹底している。
24. 学校の施設・設備は、学習環境・教育環境として満足できるものである。
25. 図書室は利用しやすいようにいろいろと工夫をしている。
26. 食堂のメニューは満足いくものである。
27. 食堂の価格は良心的なものである。
28. 学校の情報を、家庭へきめ細かく提供できている。
29. 学校のホームページを活用することができている。
30. 生徒は、包括的に考えて学校生活に満足している。